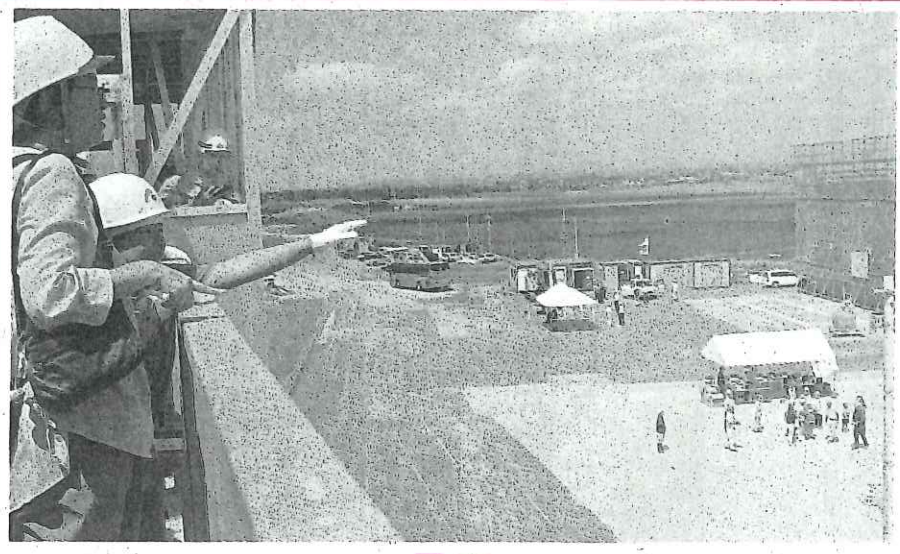
令和8年8月22日（土）
大崎タイムス掲載

# 親子ら工事現場見学

## 整備進む渋井川排水機場

古川



小学生とその保護者を対象にした「建設現場見学会」が19日、大崎市古川の渋井川排水機場工事現場で開かれた。市内の親子ら30人が水門からの眺望や作業体験を通して建設業への理解を深めた。

### 機器の操作体験も

主催したのは、県と県建設業協会大崎支部。子どもたちに建設業への興味、関心を持ってもらおうと毎年、夏休みに企画している。

渋井川排水機場は、2015年の関東・東北豪雨、令和元年台風19号で堤防が決壊した鳴瀬川水系の渋井川と多田川の合流部に整備。鳴瀬川など本川の水位上昇による逆流を防ぐ役割を持つ。渋井川水門は昨年9月に供用開始していて、排水機場は本年度末の完成に向け、工事が進められている。

**高さ20㍍を超す渋井川水門からの眺望を楽しむ親子**

**測量機器に興味津々の子どもたち**

児童たちは施工を担っている小野田建設（加美町）の従業員や同協会員の指導の下、ミニ重機やドローン、測量機器を操作。現場を背負う作業員さながらの真剣な表情で、熱心に取り組んでいた。

また、高さ20㍍以上ある水門から広大な景色を見学。眼下に広がる川や街の風景を眺めながら、施設の役割について考えている様子だった。

古川第三小6年の鈴木義友君（12）は「学校の工場見学は完成した建物だけど、造っている途中の建物を見ることはないので面白かった」と感想。同校3年の妹、葵さん（8）は「ドローンが意外と簡単に操作できたので楽しかった。測量体験は遠くのものが近くで見えてビックリした」と語っていた。

祖父の一男さん（72）は「渋井川堤防の決壊で2回、自宅が床下浸水した。水が引くまで2、3日かかり大変だった。ようやく完成する排水機場は地域住民の悲願。子どもや孫たちに同じ思いをさせたくない」と話していた。